

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム つどい		
所在地	〒021-0002 岩手県一関市中里字石川瀬13-1 (電 話) 0191-31-6500		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7-30		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年4月8日

【情報提供票より】(平成21年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	13.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 55 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一関病院・いとう脳神経内科・近江歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは一関市役所から東に車で5分ほどの場所に位置し、近くには、大型スーパーマーケット・商店・住宅等があり、買い物等の便利はよく、閑静な環境にある。事業所は医療法人により運営されており、隣接してデイサービス、有料老人ホームが設置されている。日常生活のケアでは、利用者一人ひとりの「その人らしい生活」「居心地の良い場」の実現に向けて、職員と利用者が信頼しあい、暖かい雰囲気の中でさりげなく見守りながら、それぞれのリズムでの生活を支援している。開設3年目を迎え、地域密着型施設としての特色を活かすために、ボランティアの受け入れや防災での地域住民との連携等により、地域との連携を深めるための取り組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時の話題となったボランティアの受け入れについては、高校生のボランティアを受け入れ、交流を深める機会となっている。外出支援については、花見のバスハイクや寿司の夕食などへの取り組みが始められている。運営推進会議の活用では、防災関連の話し合いなど具体的な活動に向けての協議が行われている。重度化や終末期に向けての方針の共有については、さらにホーム内で検討がすすめられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は項目ごとに全職員が分担し取り組みを行っている。そのような取り組みの中で、職員一人ひとりにとって、自分の援助の方法や今後取り組まなければならない課題等が明らかになり、利用者ごとのケアのあり方を新たに見直す契機になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、会議の中では利用者の状況報告や地域の高齢者ケアに関すること、地域の様々な出来事についての情報交換等が行われている。会議では各委員からあげられる様々な意見を参考にしながら、地域住民との連携による避難訓練の実施や、地域の子供会等の参加を含め地域との交流に重点を置いた活動を行うための話し合いを行う場として運営推進会議を活用していくことを目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居の時点で利用者、家族の希望を聞くと共に、家族の面会時や日常的な電話での連絡及び、運営推進会議の場等でホームに対する意見や要望等を確認している。施設側からは、日頃の報告や連絡以外に、毎月利用料の請求に合わせて利用者の暮らしぶりや健康状態についての報告を行っている。さらには年4回発行する広報で、施設の状況や利用者の暮らしぶりについて報告を行い、家族に安心して頂けるよう心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。近隣との付き合いでは、地域の農家の人と散歩途中での立ち話や野菜をいただいたりといった関係も築かれつつある。ボランティアの受け入れでは、夏祭りの時に市内の高校生を受け入れ交流を深めており、今後ともに継続したいとしている。また、防災への取り組みに関しては、運営推進会議の場で話し合いを行いながら地域との連携強化を図っている。

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設の時点で、ホームの理念を利用者や家族、地域の人たちに理解していただくことができるように「①その人らしい生活が継続されるように②ぬくもりのある家庭的な場の提供③地域との交流」の3つを施設独自の理念として定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全員がよく理解し実践に結び付けられるよう、職員室やリビング等に掲示するとともに、職員が理念を常に意識し、日頃の支援に役立てることができるよう「生活の継続」「居心地の良い場」「地域との交流」の3点に具体化した理念の共有と実践に取り組んでいる。	○	理念の共有のための取り組みは日頃の実践の中で適切に行われているものと理解されるが、さらに職員間で共通の理解を深めるために、計画的・意図的な研修計画やOJT(事業所内実習)に取り組まれることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での夏祭り等の地域行事に積極的に参加するとともに、地元の自治会に加入し地域の一員としての交流も深まりつつある。また、時には散歩中に農家の人との立ち話をしたり、また野菜をいただいたりとの関係を築き始めている。事業所の夏祭りには高校生がボランティアとして参加し交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は項目ごとに全職員で分担し、業務全般の見直しのための取り組みを行った。その取り組みは、職員一人ひとりの自分の援助の仕方や、これから取り組まなければならない課題などを明らかにすると共に、利用者ごとにケアの在り方を新たな視点から見直す契機になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族が参加できる日を設定し2カ月に1回開催している。参加者は家族、包括支援センターの職員、消防署の担当者、地区の区長、老人クラブの会長等であり、会議では、利用者の状況や地域の情報等に関する話が話し合われており、話し合いの結果を利用者の支援に役立てることを目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設の管理者が様々な機会に市の担当者と連絡を取り合っている。また、地域包括支援センターの担当者とは、運営推進会議以外にも日頃から連絡を取り合い相談を行っている。今後についても、市当局とより緊密な関係が築けるように努めていきたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の施設での暮らしぶりは、年4回発行の広報誌を通じてお知らせしている。介護記録は、利用料請求の際に合わせて郵送している。また、預かり金の管理状況は、毎月管理表のコピーを家族へ郵送するとともに、家族が施設を訪問した際に、使途や収支を含めて報告してサインを得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、意見箱の設置や家族の施設への訪問時に声掛けをしながら、できるだけ話しやすい雰囲気づくりを行っている。その中で利用者への声掛けの仕方やおむつのコストダウンの話が出たこともあった。これらの話を参考にし、家族の意見を施設の運営に生かす取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設以来職員1名の同一法人内異動があり、新たな職員が配置されたが、利用者に頻繁に声掛けをし、話をじっくり聞くといった態度を続けることにより利用者へのダメージを防いでいる。今後も職員と利用者との人間関係を第一に考え支援にあたっていきたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人毎の研修計画はないが、グループホーム協会等が主催する外部研修など、施設にとって重要な研修には積極的に職員を派遣している。これら外部研修結果については伝達研修を行い研修成果の共有に努めている。また、接遇に関する一般的な研修は法人内部で取り組んでいる。	○	職員一人ひとりの個性や知識・技術を勘案しながら、ケア・対人援助の専門職員として力量を高めるための個別の課題、および研修のあり方について検討されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、定例会、研修会に参加するほか、ブロックの研修活動も行っている。近隣にあるGHとは職員の交換研修や利用者の支援困難ケースの研修などを実施し、職員の資質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、利用者及び家族に施設見学に来ていただき、じっくりと話をしながら職員と利用者を紹介するなど顔なじみになってもらえるように努めている。また、入所時には家具等は使いなれたものを持参するようにお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、共に家事や洗濯物たたみをしながら、日常生活を支え合って暮らしている。また、世間話をしたり、時には昔使われていた古い言葉の意味や、季節の行事の祝い方を教わったりと和気あいあいと一緒に過ごす環境を作り上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の利用者・家族等の意向の確認とともに、その後の利用者との会話、表情、反応等日常の関わりを通じて、利用者の意向をできるだけ的確に把握するように努めている。また、センター方式のアセスメント様式を活用し”利用者の思い”への理解を深める取り組みを始めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしさを活かしたホームでの生活を支援するため、利用者、家族との話し合いを通じて希望や要望等を把握し、チームで原案を作り、月に1回の全職員によるカンファレンスを経て、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、モニタリング結果に基づいて月1回の見直しを行っている。また、利用者や家族からの新たな希望や心身の変化が見られた場合には、その都度利用者及び家族の意見を踏まえ、新たな計画を作成することになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のおやつや食料品などの買い物、理美容の利用、ドライブ等利用者の希望による外出について、利用者の要望に応じるための支援を行っている。病院への受診に際しては、定期通院のほか体調不良時には、付き添い介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホーム入居前のかかりつけ医に通院しており、職員が付き添い、利用者の日常生活の様子等を伝え、療養上の留意事項等を聴取している。また、通院時の様子は、詳しく家族にも伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に体調が悪化した場合の入院の希望等についての確認を行っている。実際に重度化した際には、家族等の意向が変わる場合もあり、基本的な方針は定めていないが、家族と十分に話し合いながら対応を行っていくこととしている。	○	利用者の重度化・終末期の対応は避けて通れない課題であり、勉強会等を通じて施設としての基本的姿勢の確立を目指していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録等の個人情報に関わる記録は鍵のかかる場所に保管すると共に、毎日の申し送りでは個人名を出さないようにするなど利用者の個人情報に配慮している。また、トイレ誘導の際などは、目立たないように声かけするなどプライバシーへの配慮を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい、買い物に行きたい等利用者の希望やペースに合わせて対応している。また、帰宅願望の強い利用者には話を十分に聞きながら、時には電話で家族と連絡とったり、散歩に誘ったり等、利用者の状況に合わせ柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者の食べたい物や旬のもの、畑で利用者が収穫したものを取り入れて決めている。食事の準備は、買い物から下ごしらえ、味付け等利用者と職員が一緒になって和気あいあいと行っている。なお、メニューは法人の管理栄養士に点検してもらいアドバイスを受けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回程度入浴できるようにしており、入浴を楽しんでもらうために菖蒲湯や柚子湯などで季節感を感じてもらっている。また、利用者個人毎に入浴のタイミングを見ながら、楽しんで入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や得意なことを活かすことを心がけており、歌が好きな人が多いのため、行事には必ず”歌”を取り入れているほか、利用者一人一人に何らかの役割を担ってもらい、メリハリのある生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や天候に応じて、日常的な散歩を行えるよう支援している。また、できるだけ外出し、買い物、寿司などの外食、お花見や牧場等へ出かけるドライブ等を楽しんでもらえるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し、施設への出入りが確認できるようになっており、夜間以外は鍵をかけていない。利用者に外出希望があるときには、さりげなく寄り添って声掛けするなど利用者の意向に沿って支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回、消防署や消防団、地域住民の協力を得て実施しているほか、災害時の非常食の準備をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに栄養や水分の摂取量を点検しており、法人の管理栄養士からアドバイスを得ながら、栄養バランスをとるように心がけている。また、利用者ごとの刻み食やとろみ食にも十分配慮しているほか、出前食をとってみたい、外食を試みるなど変化に富んだ食事の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテーブル、ソファ、こたつ、テレビ、観葉植物などが配置され、居心地よく生活できるよう工夫されている。また、利用者と職員が一緒に作った日めくりのカレンダーや暖簾が飾られ、ほのぼのとした雰囲気を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた筆筒や収納箱、時計、ラジカセ、写真などを持ち込み、居心地の良い空間を作り上げている。また、亡くなった方の位牌と写真を飾っている人もあった。		